

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 多度津の史跡を訪ねる

講師 たどつまち歩きの会

平成28年11月27日(日)

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

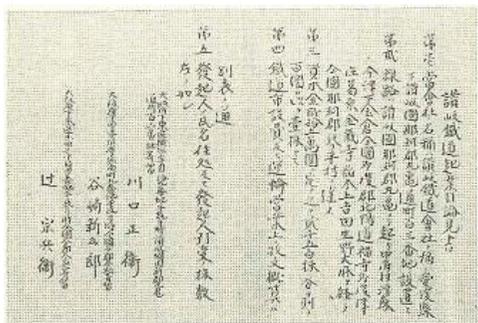
# 1 多度津町（近代産業発祥の地）

多度津町は香川県の中部に位置し、南は讃岐平野に接し、北は瀬戸内海に臨む陸地部と、海上の高見・佐柳島その他の小島を含む島嶼部とによって構成されている。弥生時代には稲作が行われ、次第に集落を形成し、七〇八世紀には多度郡の津として、海上交通の一拠点となっていたと思われる。江戸時代には多度津藩主京極高賢たかかたが陣屋を設けたこ

とで城下町として栄えた。天保九年（一八三八）五代藩主高琢たかてるは湛甫たんぽと呼ばれた新しい港を完成させ、多度津港の基盤を築き、幕末から明治中頃には、瀬戸内海沿岸の最も重要な港町となった。明治二十二年（一八八九）、多度津を起点として丸亀・琴平をつなぐ讃岐鉄道が開通したことで海陸交通の要衝へと発展し、さらに県内最初の測候所・一等郵便局・私立銀行（多度津銀行）の設立等により、多度津は四国における近代文化の発祥地として繁栄した。



昭和初期の多度津港



讃岐鉄道目論見書（この後の発起人に景山 甚右衛門・大久保謙之丞等 15 名の名がある）

## 2 多度津町立資料館



多度津町立資料館

平成二年に町制施行百周年を記念して建設されたもので、主に多度津町にゆかりのある考古・歴史・民俗等の資料を収集し、展示している。収蔵品には、高見八幡宮奉納模型和船という宝暦五年（一七五五）高見八幡宮に奉納された弁財船の模型がある。奉納年代では全国で三番目に古いものとして、昭和五十三年（一九七八）香川県指定有形民俗文化財となっている。

また、多度津藩陣屋（家中）模型も展示されており、現大通り町・家中かちゅう一帯に多度津京極氏が居住する居館（御殿）

や調練場・学館・練武館など関係施設を配した陣屋が見事に再現されている。建物は旧多度津藩士・浅見邸跡に建てられ、塀や庭園に武家屋敷の面影が残る。

## 3 富井邸

多度津町立資料館より東にある家中（かちゅう）と呼ばれる一帯は、多度津京極藩一万石の武家屋敷があった地域である。第二次世界大戦の空襲を受けておらず、古い

町割りが今でも残っている。木造平屋建、切妻造、本瓦葺。中級武士の住居施設だが、門や塀で囲まず、前面道路に接した建物配置が特徴的である。主屋とともに新座敷、土蔵、門も平成十八年に国登録有形文化財（建造物）となっている。



富井邸

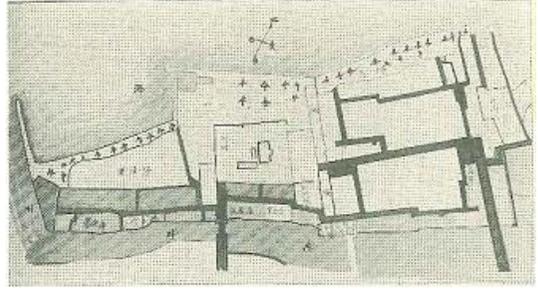


富井邸前 石柱

#### 4 京極氏旧多度津藩家中屋敷

かちゆう

多度津藩一万石の陣屋は、文政八年（一八二五）、多度津藩四代藩主高賢たかかたの時に、構築



藩政時代の多度津陣屋図

工事にかかり、同十年に完成した。陣屋は現在のJR四国多度津工場あたりを中心に、御殿・調練場・武具庫・太鼓楼・藩米倉庫・作業場などが設けられ、およそ六千六百坪を占めていた。

また、通称東御殿と呼ばれる建物は、元家老林氏の屋敷で現在では門の基礎のみ残している。さらに、鉤の手・袋小路・見附などの武家屋敷独特の道路構成が残っており、多度津藩家中屋敷の面影を今もお偲ぶことができる。

## 5 旧多度津藩お船溜り跡

多度津の中心地を流れる桜川は、豊津橋から極楽橋にかけて大きく湾曲しており、桜川河口は昔から港として利用されていた。多度津藩が

湛<sup>たんぼ</sup>甫の建設に着手した頃、桜川の港は金毘羅参詣船や北前船の出入りで

大変活気づいていたため、川沿いには神社や商家の蔵が現在も残されている。



桜川沿いの石柱

須賀<sup>すか</sup>の金刀比羅神社多度津藩の時太鼓  
(金刀比羅神社蔵)

【所在地】多度津地区大通り二・三四

(大字多度津字須賀九七二番地一)

【祭神】大物主命 (境内末社) 稻荷神社

【社殿】本殿・拝殿 (平成元年桜川改修事業で改築、

平成二年四月竣工)

【由来】鎮座の時代は不明。文化・文政年間(一八〇四〜三〇)に多度津陣屋が建設された際に、社地・社殿が整備されたと思われる。敷地西の川沿いには石碑があり、金毘羅大権現が御上陸された地と伝えられると記されている。

【文化財】多度津京極藩「時太鼓」(町指定有形文化財)は多度津藩家中の陣屋<sup>からゆう</sup>で用いられていた時刻を告げる太鼓で、明治初期まで町民に時刻を告げることに用いられていた。社殿内に安置されている。



順位※	屋号・氏名	業績
1	煙草屋 塩田 角治	<p>生没年不明</p> <p>菩提寺：多聞院（仲ノ町）カ</p> <p>西の煙草屋。萬間屋であり、江戸時代には松尾寺金光院金堂（現 国指定重要文化財「金刀比羅宮旭社」）の建立に際して寄進をしたことが確認できる。また、香川県下の資産家を相模の番付で表した『香川県讃岐国繁栄名譽鏡（図1）』（明治25年（1892））では、角治の父親である「塩田与七」が西前頭筆頭に名を残しており、多度津の『多額納税者及び資産一覧表（図2）』によると、塩田角治が才田で所有耕作反別でも群を抜いている。多度津町では随一、県内でも有数の資産家であった塩田角治は政治家としても、多度津町議会議員を務め、町政に貢献した。</p>
2	尾道屋 武田 譲	<p>明治22年（1889）生～昭和42年（1967）1月10日没77歳</p> <p>菩提寺：宝性寺（本通一丁目）</p> <p>武田家の総本家。『香川県讃岐国繁栄名譽鏡（図1）』に父親である「武田定治郎」の名前が載っている。多度津町議会議員を務めた。</p>
3	島屋 合田 房太郎	<p>文久元年（1861）3月29日生～昭和12年（1937）1月24日没77歳</p> <p>父の家業を継ぎ、米穀肥料商を営んだ。『香川県讃岐国繁栄名譽鏡（図1）』に名前が載っている。（株）多度津銀行取締役や四国水力電気（株）取締役社長などを歴任し、その経営力を発揮した。また、政治家としても多度津町議会議員を数期にわたって務めるなどして活躍した。なお、房太郎の子（次男）である合田健吉（1897～1975）は、四国水力電気（株）等の取締役、貴族院議員、第13代町長などを歴任した人物である。</p>
4	煙草屋 塩田 岩五郎	<p>生没年不明</p> <p>菩提寺：多聞院（仲ノ町）カ</p> <p>東の煙草屋。『香川県讃岐国繁栄名譽鏡（図1）』に名前が載っている。多度津町議会議員を数期にわたって務めた。</p>
5	尾道屋 武田 茂祐	<p>生没年不明</p> <p>菩提寺：宝性寺（本通一丁目）</p> <p>武田家分家。初代 武田茂祐の孫にあたる二代目 武田茂祐である。多度津町議会議員を数期にわたって務めた。</p>
6	尾道屋 武田 熊造	<p>安政元年（1854）9月23日生～大正11年（1922）3月28日没69歳</p> <p>菩提寺：宝性寺（本通一丁目）</p> <p>武田家分家。初代 武田茂祐の次男に生まれ、分家して米穀肥料商を営んだ。（株）多度津銀行の創立に携わり、讃岐電気（株）・四国水力電気（株）では取締役として、景山甚右衛門とともに事業の再建と安定化に尽力した。また、多度津商工会議所の前身体や教育団体「明徳会」の設立に携わったほか、県立多度津中学校の設立に際して寄付を行ったり、私財を投じて公会堂「楽水館」を建てたりするなど、教育・産業発展のための活動にも熱心であった。政治家としては、多度津町議会議員を数期にわたって務めるなどして活躍した。妹のエイは景山甚右衛門の妻である。また、第14代町長で民俗学者でもある武田明（1913～1992）、版画家の武田三郎（1915～1981）は熊造の孫である。</p>
7	大隅屋 景山 甚右衛門	<p>安政2年（1855）4月15日生～昭和12年（1937）10月19日没83歳</p> <p>墓所：摩尼院（仲ノ町）</p> <p>明治6年（1873）、父の死により19歳で家業を継ぎ、北前船による米穀・砂糖・干鯛等の取引に従事した。明治20年大久保謙之丞らとともに「私設鉄道願」を提出し、明治23年の讃岐鉄道開通に貢献した。また、明治24年には県下最初の私立銀行である（株）多度津銀行を設立。さらに、明治40年からは、経営不振に陥っていた讃岐電気（株）の社長となって再建に努め、社名を四国水力電気（株）に改め、経営の安定化を果たした。政治家としては、多度津町議会議員や衆議院議員を数期にわたって務めるなどして活躍した。</p>

※順位とは、大正7年（1918）の直接税納税額を比べた場合の順位である。

## 8 小国邸

明治中頃まで餅や饅頭の製造・販売店であった。江戸時代の当主、小国伝五郎氏はこの場所が金毘羅参詣の道すがらにあることから、「傳五餅（でんごもち）」という金毘羅参りのお土産品を作り、多くの人に愛される多度津名物となった。明治中頃以降は肥料販売業に転業し、昭和初期からは住宅として今日に至る。

## 9 幸之木神社

さちのき

家内安全・子孫繁栄、特に子供の神様として、靈験あらたか。古来より祭祀、現在の社殿は明治三十六年（一九〇三）に造営された。祭礼は、旧暦五月十二日。町内で最初に行われる夏祭りのはしりとして賑わい、伝承された。付近の商家では、商品や道具等で飾り物を作り、お参りに来た人達を楽しませていた。

## 10 合田邸

多度津の中心市街地である本通に面して位置しており、大正く昭和初期の実業家であり貴族院議員でもあった合田健吉が施主として建てた自邸である。広い敷地内には、大正く昭和初期に建てられたとみられる多くの建物が現存している。通りに面して正



合田邸 応接室



合田邸 外観

門があり、その北側に中二階で黒漆喰塗り出桁造の玄関棟と洋風の応接室、南側に黒漆喰塗り二階建の土蔵がある。玄関棟の背後（西側）には和風の平屋建て居宅があり、漆塗りの折上げ格子天井を伴う大広間（客間用）や土佐漆喰塗りと杉板張りの外壁をもつ書斎、居間・食堂・炊事場等が建設当時のまま、現在も残っている。居宅の西側奥には、煉瓦造二階建の倉庫（蔵）がある。コーナー及び開口部横のキャピタルには御影石の小叩き仕上げの笠石が乗せられている。また、けらばには御影石の小叩き仕上げがボーダー状に並べられており、屋根頂部の練飾りも御影石である。また主屋の西側奥には、洋風のゲストルームが建っている。大正時代に多度津七福神と呼ばれた大地主あるいは実業家の邸宅が多く建てられたが、合田邸は既に解体された景山邸（大正元年（一九一三））、武田邸（大正十四年・あめりか屋高島司郎設計、あめりか屋施工）などとともに香川県における多度津の特異性や地域性を強く示すものであり、七福神の財力を物語る邸宅となっている。

《参考文献》

● 『多度津町誌』

平成二年十一月二日 多度津町 発行

● 『讃岐人物風景5 京極六万石の領主たち』

昭和五十六年九月三十日 四国新聞社 編集

● 『多度津町文化財保護協会会報 第四十四号』

平成二十八年四月一日 多度津町文化財保護協会 発行

● 多度津町立資料館パンフレット



1 1 月 2 7 日（日）多度津からの復路

	（多度津駅）		（高松駅）
◆快速サポート南風リレー号上り	11:59	→	12:32 着
◆予讃線上り	12:10	→	12:51 着



## 次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 六条から由良を歩く（予定）  
と き 平成28年12月18日（日）  
9:30～12:00頃  
集合場所 〈新〉林コミュニティセンター

※平成28年1月12日より、JA香川県農協林支店から北へ  
徒歩3分の場所に移転しております。

講 師 大嶋 和則さん（高松市文化財専門員）

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」12月1日号に開催案内を掲載します  
ので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）で  
お知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

## ★次回の交通案内★

◆ことでんバス（サンメッセ・西植田線下り）

（高松駅） （高松築港） （瓦町） （サンメッセ東）  
8:39 → 8:42 → 8:49 → 9:11

サンメッセ東バス停---北へ徒歩7分---〈新〉林コミュニティセンター

## 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※参加中は、次のことに充分留意し、  
意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、  
道路の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。